エンパワーするNGO
YWCA

年次報告書 2022

Annual Report

米国YWCA主催レセプションにて

特集 Feature

第67回 国連女性の地位委員会

3年ぶりにユースがニューヨークで現地参加。多くの方の応援を受けて送り出され、日本の若者の声を発信してきました。

「I'm Feminist! #YouthPower」

国際女性デー、国連本部前広場にメッセージを書く。

フィンランド政府主催イベントに参加

公益財団法人 日本YWCA

プロフィール

YWCA(ワイ・ダブリュー・シー・エー/Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。1855年英国で始まり、今では日本を含む100以上の国・地域で活動しています。日本では、24の地域YWCAと37の中学・高等学校YWCAが活動しています。
女性や子どもや高齢者など、弱い立場におかれている人たちの本来の力を取り戻し、共に生きる世界を実現する人材を養成しています。

日本YWCAのビジョン

女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切にする社会

日本YWCAのミッション

若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます

日本YWCAのバリュー（大切にしている価値）

1.キリスト教基盤

すべての人は神の前に等しい価値をもつと信じ、常に弱い立場に置かれた者の側に立たれたイエス・キリストの生き方に倣(なら)って行動します。

2.平和・環境

アジア・太平洋戦争の反省から生まれた平和憲法を活かします。
すべての「核」を否定し、軍事基地を含む暴力のない公正で持続可能な社会をめざします。

3.人権

人種・国籍・宗教・性・出自・年齢などの多様性を互いに尊重し、ジェンダー平等のもとで誰もが自分らしく生きることができる社会をつくります。

4.セーフ・スペース

会員（ボランティア）が主体的にプログラムを推進し、すべての活動を、多世代協働によって民主的に運営します。
常に誰にとっても安全安心な空間をつくり、誰もがエンパワーされる場とします。

目次

特集： …… 1
第67回国連女性の地位委員会（CSW67）

若い女性のリーダーシップ養成 …… 2
中高YWCA全国カンファレンス2022
地域YWCAジェンダーに関する活動交流会

平和な社会を目指す活動 …… 3
ひろしまを考える旅2023
近現代史講座～日韓編～
講演会：『海をあげる』の上間陽子さんに聴く、沖縄

東日本大震災 被災者支援活動 …… 4
YWCA活動スペース「カーロふくしま」
未来への安心のために「リフレッシュプログラム」
もうひとつのわが家「セカンドハウスプログラム」

国内ネットワークと人材養成 …… 5
YWCAフェスタをハイブリッド開催！
バーチャルde地域YWCA訪問
ユースの支援者支援講座開催
ユース・ギャザリング開催
「心地よく自分を表現する」講座開講

国際連帯・アドボカシー …… 6
国際平和デー・オンラインイベント開催
世界YWCA主催「ダイアログ」
「アジア地域YWCA会議」
韓国YWCA主催「女性平和フォーラム」
声明・賛同
パレスチナへの連帯と支援
ウクライナ支援

コラム …… 8
ひろしまを考える旅の裏側

2022年度募金ピックアップ …… 9
「ピースメーカーズ募金」を深堀り

寄付報告 …… 裏表紙

特集

第67回 国連女性の地位委員会（CSW67）

「もっと自分の言葉で伝えたい」ユースの視点でイベント主催

日本YWCAは国連協議資格を持つ国際団体として、毎年3月に米国・ニューヨークで行われる国連女性の地位委員会（CSW）にユースが参加する機会を作っています。3年ぶりとなった現地参加の様子を報告します。

2023年3月4日～11日、5名のユース（オンライン参加1名含む）が派遣されました。3日目には市内の会場とオンラインのハイブリッドで1時間半のイベントを主催。「ソーシャルメディアと性的搾取」をテーマに、日本のマスメディア上のジェンダー課題やオンラインでの子どもへの性的搾取などの現状、それを受けてのユースとしての提言を発表したのち、会場40人・オンライン60人の参加とともに具体的アクションを考えるアクティビティを行いました。

国連本部にて

発表を終えたユースたちからは「さまざまなオンラインツールを駆使した発表のため不安があったが、ハイブリッド方式が無事成功してよかった」、「さまざまな人と出会うことができ、貴重な経験だった」、「もっと自分の言葉で伝えたい、話したいと思った」などの声があり、入念に重ねた準備が実を結んだ充実感が伝わりました。

その後の日程も、世界各国からの仲間との出会い、国連本会議場での傍聴や各国政府・団体主催イベントへの参加など、多くの経験を持ち帰りました。

日本YWCA主催パラレルイベント

※CSW派遣はピースメーカーズ募金へのご寄付を用いて実施しています。

若い女性のリーダーシップ養成

中高YWCA全国カンファレンス2022

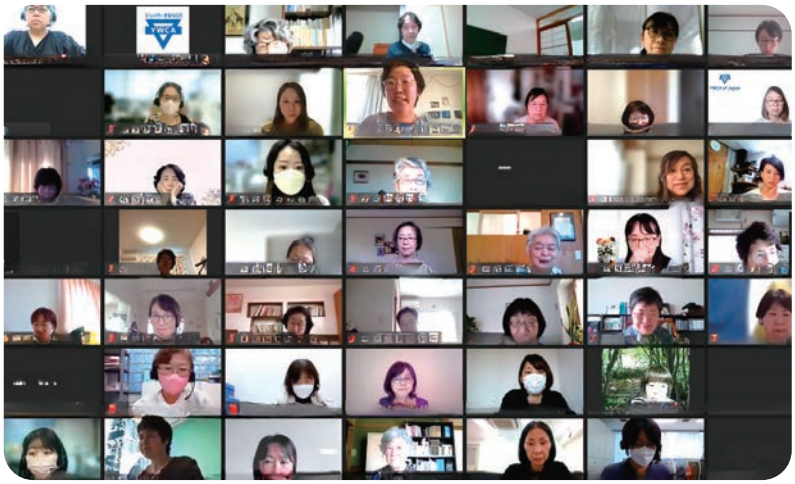
2022年8月2日(月)～3日(火)
@オンライン
参加者:201名

日本YWCA「ユース・ジェンダー小委員会」主催ワークショップ

テーマは「世界につながる いのちのチカラ」。初めてのオンライン開催です。当日は世界YWCAのユースとオンラインで対話する時間を持ちました。また12のワークショップのうち9つを地域YWCAのユースたちが担当し、これまで培ったファシリテート力や学びを発揮しました。中高YWCAの生徒たちにとっては年齢が近い人たちが社会課題に取り組んでいることを知り、新たに歩みだす時でした。

地域YWCAジェンダーに関する活動交流会

2022年5月28日(土)
@オンライン
参加者:80名


オンラインで集った参加者たち

年に1度の「加盟YWCA中央委員会」に合わせてオンライン開催。全国24の地域で活動するメンバーがジェンダーに関する活動を紹介し合いました。「ご当地言葉」での自己紹介に続き、体験の分かち合い、6つのテーマに分かれた分科会を実施。日ごろの「モヤモヤ」を言葉にし、ジェンダー平等やフェミニズムについて改めて考えることで、新たな活動や地域を超えた連携のヒントを得ることができました。

平和な社会を目指す活動

ひろしまを考える旅2023「なぜ、核兵器を持ちたがるの？」

2023年３月25日（土）～27日（月）
開　催：広島市内
参加者：42名

「ひろしまを考える旅2023」全員集合の写真

日本YWCAでは、「ひろしま」を訪問し、被爆者や被爆の歴史を伝える跡を巡り、平和や核について学ぶプログラムを行っています。今年は3月25日～27日に実施し、42名が参加しました。フィールドワークを通して、被爆に至る歴史、その実態などを、実感を持って学ぶことができました。中学2年生の参加者からは「現場を訪問したから知ることができた。このような学びを続けてほしい」という声があがりました。講演会では核兵器廃絶に向けて運動する人の話を聞き、これから何をすべきかについても考えることができました。

近現代史講座～日韓編～

2022年6月25日（土）近代以前の朝鮮半島と日本の交流
7月16日（土）東アジアの近代化と朝鮮・8月20日（土）南北分断、軍事政権から民主化
講師：小澤裕子（大阪YWCA会長）、参加者：45名うちユース26名

日韓ユース・カンファレンスなどの国際プログラムに参加するユースを対象に、朝鮮半島の歴史を学ぶ、初学者向けのオンライン学習会。毎回、韓国・朝鮮の文化やスポーツにまつわるこぼれ話を交えながらの密度の濃い内容に、さらに興味が深まったとの声が多数寄せられました。

講演会：『海をあげる』の上間陽子さんに聴く、沖縄

2022年5月21日（土）
開　催：ぎのわんセミナーハウス／オンライン
講　師：上間陽子（琉球大学教育学研究科教授）
参加者：208名

「海をあげる」講演会のチラシ

専門の社会調査では沖縄の夜に働く少女たちの生の声を聴き、シェルター「おにわ」の共同代表でもある上間陽子さん。小学校や母子支援施設、女性支援の現場などで活躍するYWCA会員とのトークセッションは、厳しい環境でもあきらめない上間さんの、やさしさに満ちた時間となりました。

東日本大震災被災者支援活動

日本YWCAは、2011年3月のあの日生まれた子どもたちが20歳になるまで支援を続けると決意して、東日本大震災被災者支援を続けています。2022年も、新型コロナウィルス感染症流行の影響を受けながらも、震災とコロナ禍、日常の暮らしの中に埋もれたふたつの課題と向き合い寄り添うサポートを行いました。

YWCA活動スペース「カーロふくしま」

のべ480名利用

2022年秋に開催された「カーロでスタディお楽しみ会」の参加者たち

福島市で運営する「カーロふくしま」は、東日本大震災被災者支援の活動拠点として、震災後の生活や放射線量による不安や悩みに向き合っています。小中学生のための学習支援「カーロでスタディ」を毎月1日～2日開催し、ユースの居場所作り活動支援などの新たな協働にもつながりました。オンラインで全国へ発信する「おはなし会」は3回開催。東京新聞の片山夏子さんらを招き、今の福島を発信するなど、多角的なテーマで実施しました。

未来への安心のために「リフレッシュプログラム」

2022年度実施プログラム数:1

全国の地域YWCAが主催し、福島県の子どもたちに、県外で線量を避け心身のリフレッシュをしてもらおうというプログラムです。2022年度は熊本YWCAで45人の参加を得て2023年3月に実施。また東京YWCAでは関連プログラムとして福島の日常を写し出す写真展が3月に開催されました。

家族でリラックスする もうひとつのわが家「セカンドハウスプログラム」

2022年度実施プログラム数:2

セカンドハウスは、自宅同様にリラックスして過ごせる家族単位のリフレッシュプログラムです。2022年度も、賛同する皆さまの多大なご協力によって2家族をお迎えすることができました。

国内ネットワークと人材養成

日本YWCAは、国内24の地域YWCAのつながりを活性化させ、そこにつながる一人ひとりがエンパワーされるためのイベントを実施しています。

YWCAフェスタをハイブリッド開催！

2022年11月26日（土）
開　催：東京YWCA会館/オンライン
参加者：対面97名、オンライン38名

YWCAフェスタ2022の参加者たちの集合写真

「出会う！つながる！共に社会を変える！」を主題に、日本全国の会員が集まる「YWCAフェスタ」を4年ぶりに開催しました。対面・オンラインで合計135名が集い、久々の再会を喜びました。午前は「出会う」、午後は「つながる」をテーマに、地域YWCAをはじめとした合計15のグループがワークショップを展開。世代を超えて学び合う機会に、連帯により生まれる力と、志を共にする「この仲間たちとならば社会を変えられる！」という可能性を全身で感じ、その一歩を踏み出す時となりました。

バーチャルde地域YWCA訪問

昨年度からスタートしたオンラインでの地域YWCA訪問。今年度は16地域YWCAを訪問しました。各地域YWCAが歴史や活動を写真や動画で紹介。ご当地言葉の挨拶も新鮮でした。

各回訪問報告はこちら

QRコード
バーチャル地域訪問

ユース・ギャザリング開催

2022年11月27日（日）
会　場：お茶の水WATERRAS
参加者：21名

全国でYWCAに関わるユースの関係性構築のため、交流や自分を知るトレーニングを実施。賑やかで真剣な時間を過ごしました。

ユースの支援者支援講座開催

2021年度も実施した「ユースの支援者支援講座」を全2回オンラインでダイジェスト開催。各回15名ほどが参加しました。

セーフ・スペースで体験しよう！「心地よく自分を表現する」講座開講

2023年1月29日（日）
会　場：大阪府男女共同参画センター（ドーンセンター）
参加者：12名

ユース対象の講座として、日常のさまざまな場面でのコミュニケーションの悩みを共有し合い、自分を守りながら伝える方法について学びを深めました。

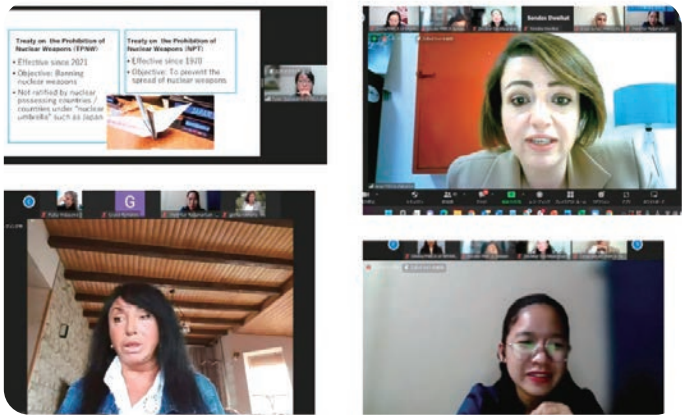
国際連帯・アドボカシー

100以上の国・地域で活動するYWCA。2022年度はオンラインでの協働がさらに活性化しました。

国際平和デー・オンラインイベント開催

平和について、国を超え一人ひとりの声を

2022年9月21日（水）
@オンライン
参加者：33名



オンラインイベント開催画面

「#herstory」と題して日本YWCAが呼びかけた国際平和デーのオンラインイベント。ウクライナやパレスチナをはじめ10ヵ国・地域からの参加がありました。一人ひとりが「自分の国／団体の代表」でなく個人として参加し、互いにつながりを深められるインタラクティブなプログラムとして開催。各参加者が、平和・紛争・正義などに関する経験や思いを他の地域の参加者と語り合う、貴重な時間となりました。

世界YWCA主催「ダイアログ」

スイス・ジュネーブに本部を置く世界YWCAが呼びかけ、グローバルな活動の展望について協議するためにオンライン開催する「Dialogue（対話）」。2022年度は３回のセッションに参加しました。

「アジア地域YWCA会議～女性と平和・安全保障～」

2022年6月10日（金）@オンライン

オンライン開催された「アジア地域YWCA会議」には11ヵ国のYWCAから代表者が参加。日本YWCAからは長年にわたる平和構築への取り組みについて報告しました。

韓国YWCA主催「女性平和フォーラム」

2022年7月6日（水）@オンライン

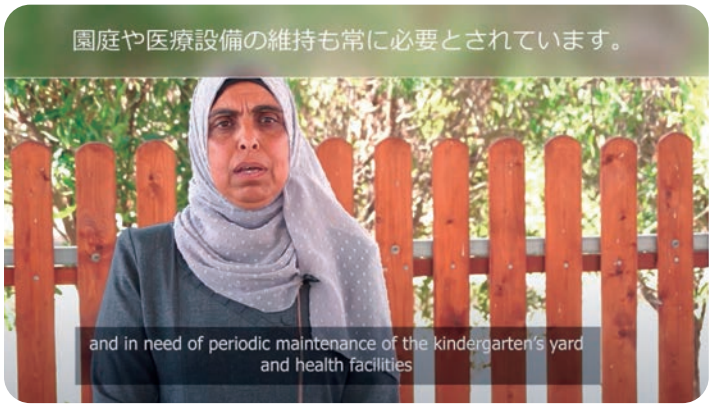
韓国YWCA設立100周年を記念して開催された「2022YWCA女性平和フォーラム（2022 YWCA Women Peace Forum）」に日本YWCA代表者がオンライン参加。平和憲法を守るための活動とその背景について発題しました。

声明・賛同

- 「ロシア軍の即時撤退と対話による解決を強く求めます」声明発表（4月6日）
- 「安倍晋三元首相の『国葬』に強く反対します」声明発表（8月3日）
- 日本のNGO団体による要請文「イスラエル・ガザの停戦継続に向けて」に賛同（8月23日）
- 「『安保３文書』閣議決定 への抗議文」を提出（12月23日）
- 「『安保３文書』閣議決定への抗議文（27団体賛同）」を提出（2023年1月10日）
- 「戦争ができる国づくりのため他国への武器援助さえ実施する「安保3文書」に反対します」に賛同（2023年1月11日）

パレスチナへの連帯と支援：子どもたちの心身を支える活動

パレスチナでは、何十年も不安定な情勢下のなかで、子どもたちの心身のサポートが必要とされています。1950年に難民キャンプで幼稚園事業を開始したパレスチナYWCAは、軍事占領下で生きる子どもたちがクリエイティブに学び、健康に育ち、自信を育む場をつくっています。日本YWCAは2022年、新型コロナウィルスの流行で困難に直面する幼稚園事業を支える募金の呼びかけを開始し、5月にはオンラインイベントを行いました。



パレスチナYWCA幼稚園からの状況報告

また、イスラエル軍や入植者により脅かされるパレスチナの土地に世界中の人々がオリーブを植樹する「オリーブの木キャンペーン」を応援しています。2022年度は148本のオリーブを贈りました。

ウクライナ支援：困難の中にいる女性たちのニーズに応えて

2022年2月のロシアによる侵攻開始以来、日本YWCAは全国の地域YWCAと連携してウクライナ支援を行っています。

2022年度は

・ウクライナYWCAの行う現地の女性たちの支援

・日本YMCAの行うウクライナ内外避難者への支援活動

に募金を届けました。2023年3月からは支援先をウクライナYWCAに絞って募金を呼びかけています。

ウクライナYWCAは、被災した女性たちのニーズに応えて、食料、医療品、建築資材など基本的な生活必需品の配布、また子どもや高齢者施設の支援を行っています。心の傷を負った女性たちのための精神的リハビリテーションプログラムも計画しています。

物資支援先からの報告写真

コラム

ひろしまを考える旅の裏側　実行委員に聞いてみた！

「ひろしまを考える旅」（P.3）はボランティアの委員やユースのリーダー、職員で委員会を立ち上げ、1年かけてすべての企画と準備・運営を行っています。本コラムではボランティアリーダーと職員として参加した2人が経験と感想を語ります。

「より自分事に」（大学3年生・ボランティアリーダー）

“学校での授業や漫画、映画などの作品で戦争や原爆に対し考える機会はありましたが、以前はどこかまだ他人事のように思っていました。しかし、今回実際に現地に赴いて見たり聞いたりしたことで、より自分事のように感じ、自発的に情報を集めるようになりました。また、一人で内省するだけでなく、参加者同士で感想や意見を言い合う機会もあったので、他の人の体験や思いを共有でき、ただのインプットでは終わらずアウトプットすることができたのも良かった点でした。”

「ひろしまを考える旅」に参加した学生たち

「担当職員として初参加」（日本YWCA職員）

“担当職員として初めて旅の運営に関わり、オンラインでの打ち合わせを重ねながら、当初は大変苦労しました。しかし、委員会はじめ、多くの方々に温かく受け入れ、励ましてもらい、本番を迎えられました。ユースを中心に、全国からさまざまな方が参加した旅。多世代協働を掲げるYWCAの醍醐味を体感しつつ、多くのリソースパーソンの方にもご協力いただきました。桜の舞う広島を、77年前に想いを馳せながら巡った3日間は、参加者一人ひとりにとってかけがえのない経験となったのではと思います。”

加害と被害を想像しながら、歩く似島コース

2022年度募金ピックアップ
「ピースメーカーズ募金」を深堀り

若い女性のリーダーシップ養成のための募金です。参加した一人ひとりがエンパワーされる経験を通じて「平和を実現する人（ピースメーカー）」になり、その力で社会を変えていくことを目指しています。ピースメーカーズ募金は以下のようなプログラムに用いられます。

日韓ユース・カンファレンス

「私の夢は、差別問題において人間が変わる大きな一歩の、小さなきっかけになることです。その思いを一層強めてくれたのが、硬い価値観を溶かしてくれた今回のプログラムです。」（2021年度参加者）

中高YWCA全国カンファレンス

「2日間を通して、違う価値観を持った人たちと意見を共有することで『その視点から考えたことないかも?』と見方が変化しました。将来「きょうだい児」たちへの支援を目的とした会社の起業を目指すわたしにとって、とても貴重な体験となりました。」（2022年度参加者）

国連女性の地位委員会（CSW）

「CSWは女性のあらゆる人権やエンパワメントのアジェンダを協議する場ですが、自らのStory（物語）、Voice（声）、Past（過去）を語り合い、人との繋がりを築く場でもあります。そのようなパワーの満ちている場に行けたからこそ、私も10日間の中で自分を受け入れ、Our Voice(私たちの声）を発信できたのだと確信しています。」（2018年度参加者）

日本YWCAは今後も、ユースが自分と社会の可能性に出会う経験をつくりだします。「ピースメーカーズ募金」はそのための募金です。ご一緒に「平和を実現する」ため、どうぞ力をお貸しください。

寄付報告

2022年度も、多くの皆さまからのご支援･ご協力を誠にありがとうございました。
日本YWCAは、今後も平和で誰もが尊重される社会に向けた、女性たちの主体的な活動を支援していきます。

代表理事 実生 律子・会長 藤谷 佐斗子

寄付のご報告と募金の種類

ピースメーカーズ募金	2,700,756 円	平和を創りだす女性のリーダーシップ養成活動に用います。
東日本大震災被災者支援募金	1,662,640 円	被災地の女性と子どもたちを支援する活動に用います。
「カーロふくしま」サポーター	650,500 円	東日本大震災被災者支援事業の一つ「カーロふくしま」を支えてください。
賛助費	1,615,000 円	日本YWCAの活動全般をご支援ください。 ［一口年額］3,000円／5,000円／10,000円
災害時支援募金	1,087,352 円	国内外の緊急支援活動に用います。
オリーブの木キャンペーン募金	470,311 円	一口3,000円で、オリーブの木1本をパレスチナに植えます。寄付者には証明書が発行され、植樹された場所に寄付者の名前入りプレートを置きますので、必ずお名前のローマ字表記をお知らせください。
パレスチナYWCA支援募金	673,410 円	パレスチナYWCAが難民キャンプで運営する幼稚園の支援に用います。
ウクライナ支援募金	3,307,156 円	現地の女性や子どもたちへの経済的･心理的支援活動に用います。
日本YWCAユースエンパワメント募金	19,958 円	ユース対象プログラムの参加者への支援に用います。
合計	12,187,083円	

募金方法

※日本YWCAへの募金/寄付金(賛助費を含む)は、税額控除の対象になります。

▶銀行振込　三井住友銀行　飯田橋支店　普通　1198743
（口座名）公益財団法人日本 YWCA

ゆうちょ銀行　支店名 019　当座預金 023723
コウエキザイダンホウジンニホンワイダブリューシーエー

▶郵便振替　00170－7－23723
（加入者名）公益財団法人日本 YWCA

Eメールで（郵便振替は通信欄で）①募金の種類、②ご住所、③お名前を、オリーブの木キャンペーン募金の場合は④お名前のローマ字もお知らせください。（税額控除の書類、オリーブの木証明書を送付します）

▶クレジットカードで募金

QR コードから、クレジットフォームを通じてご寄付いただけます。

クレジットカードで募金 QRコード

▶賛助員になってください！

「賛助員」は、費用面で YWCA の活動を支えることができるサポーターです。女性だけに限りません。詳しくは QR コードから日本 YWCA ホームページ「会員・賛助員について」をご覧ください。

日本YWCA ホームページ 会員・賛助員について

公益財団法人 日本YWCA

〒101-0062　東京都千代田区神田駿河台1-8-11　東京YWCA会館302号室
Tel: (03)3292-6121　Fax: (03)3292-6122　Email: office-japan@ywca.or.jp
Website: http://www.ywca.or.jp